平成21年1月5日
新潟地方気象台

2008年の北陸地方の天候経過

－北陸地方の天候の特徴と気象トピックス－

（春の高温・少雨、遅い梅雨入り・梅雨明け）

- ◆ 冬（2007年12月～2008年2月）は、前半は冬型の気圧配置は弱く、気温は変動が大きいものの高い日が多かった。後半は、気温は平年並か平年を下回る日が続いたものの、強い冬型の気圧配置は一時的だった。このため、冬の気温は平年並となり、降雪量はかなり少なかった。
- ◆ 春（3～5月）は、寒気の影響を受けることが少なかったため気温はかなり高かった。また、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。
- ◆ 夏（6～8月）は、梅雨入りが6月19日ごろと遅く、梅雨明けは8月6日ごろと平年よりかなり遅かった。梅雨前線の活動は7月中旬までは不活発だった。7月下旬以降は前線や上空の寒気の影響で局地的に大雨となった。
- ◆ 秋（9～11月）は、11月は曇りや雨の日が多かったが、9月と10月が高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、高温・少雨・多照となった。
- ◆ 12月は、上旬から中旬にかけて冬型の気圧配置となることが少なく、上旬を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、気温はかなり高く、日照もかなり多かった。
- ◆ 北陸平均の年平均気温の平年差は+0.7℃で、12年連続して「高い」階級となった。
  参考：2008年の日本の年平均気温の平年差（速報値：１月～11月）は+0.41℃で、統計を開始した1898年以降では13番目に高い値となる見込み。また、2008年の世界の年平均気温（陸域における地表付近の気温と海面水温の平均）の平年差（速報値：１月～11月）は+0.20℃で、統計を開始した1891年以降では10番目に高い値となる見込み（気象庁：平成20年12月15日報道発表資料）。
- ◆ 台風の発生数は22個（平年の年間発生数26.7個）、上陸数は0個（平年の上陸数は2.6個）といずれも平年より少なかった。

☆冬（2007年１２月～2008年２月）　－12月は高温・多雨、寡照と少雪顕著－

12月から1月上旬にかけては、低気圧や気圧の谷が日本海から北日本を通過することが多く、冬型の気圧配置は弱かった。1月中旬以降は冬型の気圧配置となる日が多く、雪または雨の日が多かった。特に、2月中旬の中頃には強い冬型の気圧配置となり、まとまった降雪があったため、山沿いや山間部では最深積雪が平年を超えたところもあった。また、下旬には低気圧が東海上で発達し、暴風雪や高波の被害が発生した。

気温は、12月が高かったものの、2月が平年を下回ったため、冬の平均気温は平年並だった。降水量は、12月が多かったものの、1月がかなり少なかったため、冬の降水量は少なかった。日照時間は、12月がかなり少なかったため、冬の日照時間は少なかった。降雪量は、12月がかなり少なく、1月と2月も少なかったため、冬の降雪量はかなり少なかった。

３か月平均と月別の平均気温・降水量・日照時間・降雪量の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	１２～２月	１２月	１月	２月
平均気温平年差：階級	+0.2℃：平年並	+1.0℃：高い	+0.2℃：平年並	-0.7℃：平年並
降水量平年比　：階級	94%：少ない	126%　：多い	65%：かなり少ない	91%：平年並
日照時間平年比：階級	89%：少ない	70%：かなり少ない	102%：平年並	95%：平年並
降雪量平年比　：階級	44%：かなり少ない	14%：かなり少ない	37%：少ない	66%：少ない

☆春（３月～５月）　－顕著な高温（特に3月が顕著）・少雨－

天気は周期的に変わったが、低気圧の影響を受けることが少なく、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、期間を通して寒気の影響を受けることも少なかった。特に3月は、低気圧が通過し

た後に冬型の気圧配置となることが少なかったため、高温・少雨・多照となった。

気温は、3月がかなり高く、4月と5月も高く経過したため、春の平均気温はかなり高く、1946年からの統計開始以降、高い方から第3位（タイ記録）の値となった。月別では、3月が顕著な高温となり、高い方から第2位の値となった。降水量は、3月と4月が少なかったため、春の降水量はかなり少なかった。日照時間は、3月と5月が多かったため、春の日照時間は多かった。

３か月平均と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	３～５月	３月	４月	５月
平均気温平年差：階級	+1.2℃：かなり高い	+1.8℃：かなり高い	+0.9℃：高い	+0.9℃：高い
降水量平年比　：階級	81%：かなり少ない	82%：少ない	78%：少ない	83%：平年並
日照時間平年比：階級	104%：多い	110%：多い	99%：平年並	105%：多い

☆夏（６月～８月）　－遅い梅雨入り・梅雨明け、7月は高温・少雨－

6月は、上旬は台風第５号や前線の影響で曇りや雨となったが、中旬は高気圧に覆われ晴れた日が多かったため、梅雨入りは6月19日ごろと遅かった。梅雨入り後は天気のぐずつく日が多くなったが、梅雨前線は月を通して本州南岸や南海上に停滞することが多かったため降水量は少なかった。

7月に入っても同様で、中旬にかけて梅雨前線の活動が不活発だった。下旬は、北陸西部（富山県・石川県・福井県）では高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、新潟県では低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。8月上旬の中頃まで前線の影響を受けたため、梅雨明けは8月6日ごろと平年よりかなり遅かった。

気温は、6月と8月が平年並だったが、7月が高かったため、夏の平均気温は高かった。降水量は、6月と7月は少なかったが、8月が多かったため、夏の降水量は平年並だった。日照時間は、各月ともに平年並だったため、夏の日照時間は平年並だった。

３か月平均と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	６～８月	６月	７月	８月
平均気温平年差：階級	+0.4℃：高い	-0.3℃：平年並	+1.6℃：高い	-0.1℃：平年並
降水量平年比　：階級	87%：平年並	72%：少ない	67%：少ない	126%：多い
日照時間平年比：階級	101%：平年並	104%：平年並	107%：平年並	93%：平年並

☆秋（９月～１１月）　－高温・少雨・多照、特に10月の高温顕著－

9月と10月は、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。11月は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や寒気の影響を受けて平年と同様に曇りや雨の日が多かった。なお、10月から11月にかけて突風や竜巻が多く発生した。

気温は、10月がかなり高く、9月も高かったため、秋の平均気温は高かった。降水量は、10月と11月が平年並だったが、9月が少なかったため、秋の降水量は少なかった。日照時間は、11月が少なかったが、10月が多く、9月も平年値を上回ったため、秋の日照時間は多かった。

３か月平均と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	９～１１月	９月	１０月	１１月
平均気温平年差：階級	+0.7℃：高い	+0.5℃：高い	+1.3℃：かなり高い	+0.1℃：平年並
降水量平年比　：階級	86%：少ない	57%：少ない	91%：平年並	111%：平年並
日照時間平年比：階級	106%：多い	108%：平年並	112%：多い	96%：少ない

☆１２月　－高温・多照顕著－

上旬から中旬にかけて冬型の気圧配置となることが少なく、上旬を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、上空の寒気も平年に比べ弱かったため、気温はかなり高く(平年差+1.3℃)、また日照もかなり多く(平年比148%)なった。降水量は平年並だった。

☆年（1月～１２月）－高温・少雨・多照－

2008年の北陸地方年平均気温の平年差は+0.7℃で12年連続して「高い」階級となった。

各気象官署の値は表１のとおりで、経年変化は長期的に上昇傾向である（図１）。月別では「低い」階級となった月がなく、全ての月で「平年並」か「高い」階級となり、3月と10月と12月は「かなり高い」階級となった（図２）。

年降水量の平年比は84%と「かなり少ない」階級となった。月別では8月が「多い」階級となった他は、「平年並」か「少ない」階級となり、1月は「かなり少ない」階級だった（図３）。

年日照時間の平年比は105%で「多い」階級だった。月別では11月に「少ない」階級となった他は、「平年並」か「多い」階級となり、12月は「かなり多い」階級だった（図４）。

なお、各気象官署の年別の極値更新については表２、季節別の極値更新は表３、月別の極値更新は表４のとおりである。

注１：平年値としては、1971～2000年の30年平均値を使用している。

注２：本文中の平年差・比は、北陸地方の９地点（気象官署等）平均の値である。なお、北陸平均の統計開始は1946年。

表1　２００８年の北陸地方の年統計値

	年平均気温		年降水量		年間日照時間	
	実況 (℃)	平年差 (℃)	実況 (mm)	平年比 (%)	実況 (h)	平年比 (%)
新潟	14.2	+0.7	1530.0	86	1732.0]	×
相川	14.4	+0.8	1311.0	87	1727.0	104
高田	14.0	+0.7	2346.5	84	1656.9]	×
富山	14.6	+0.9	2060.5	92	1697.1	106
伏木	14.2	+0.5	2100.5	96	1715.3	106
金沢	14.9	+0.6	1859.0	75	1771.3	106
輪島	13.8	+0.6	1665.5	77	1635.8	103
福井	14.7	+0.4	1964.5	87	1703.8	106
敦賀	15.7	+0.7	1662.5	75	1621.1	102
北陸平均]		+0.7		84		105

注：]は欠測を含んでいます。

新潟と高田の日照時間は資料不足値のため平年比は計算せず、同要素の北陸平均は7地点平均

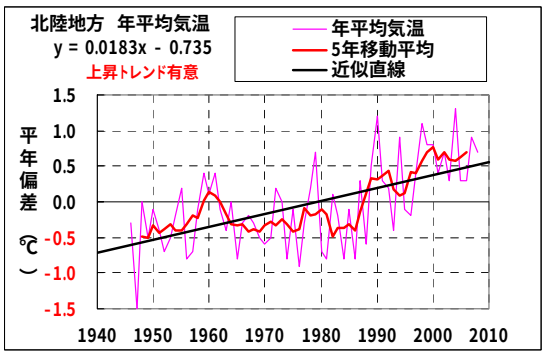

図１　北陸地方の年平均気温経年変化
（1946年～2008年）

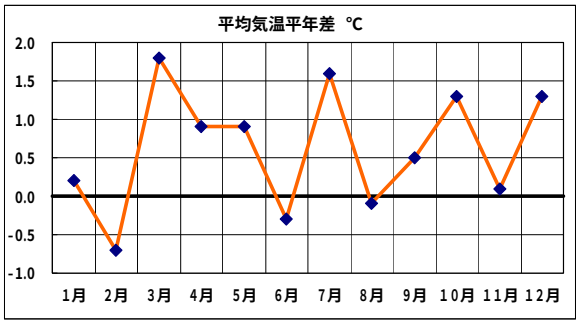

図２　北陸地方の月別平均気温平年差（℃）

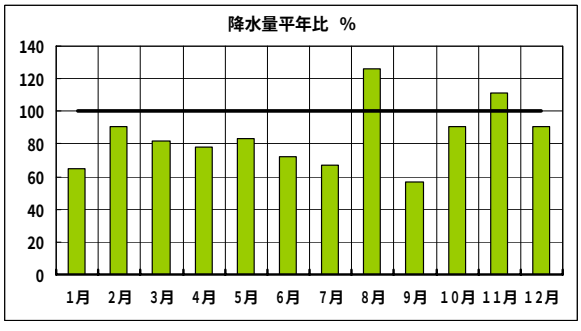

図３　北陸地方の月別降水量平年比（%）

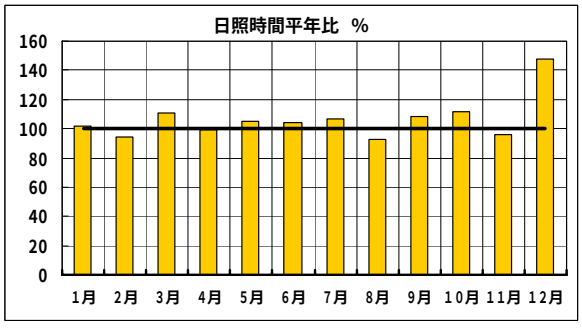

図４　北陸地方の月別日照時間平年比（%）

表2　年として順位を更新した記録（3位以内）

◆年平均気温の高いほうからの順位更新

順位	官署	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃	これまでの最高 西暦年	統計開始年	平年値 ℃
2	相川	14.4*	+0.8	14.7	2004	1912	13.6

◆年降水量の少ないほうからの順位更新

順位	官署	降水量 mm	平年比 %	これまでの最少 mm	これまでの最少 西暦年	統計開始年	平年値 mm
3	金沢	1859.0	75	1600.5	1994	1886	2470.2
	輪島	1665.5	77	1575.5	1994	1930	2156.5

注：*印はタイ記録

表3　２００８年の季節（3か月）別で順位を更新した記録（3位以内）

◆3か月平均気温の高いほうからの順位更新

月	順位	官署	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃（西暦年）	統計開始年	平年値 ℃
3～5	3	新潟	12.4	+1.5	12.9（1998）	1886	10.9
		高田	12.2	+1.4	12.9（1998）	1923	10.8
		相川	12.1	+1.5	12.3（2002）	1912	10.6
		輪島	11.7	+1.2	12.3（1998）	1930	10.5

◆3か月間降水量の少ないほうからの順位更新

月	順位	官署	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm（西暦年）	統計開始年	平年値 mm
3～5	3	新潟	183.5	61	130.5（1994）	1886	301.5

表4　２００８年の月別で順位を更新した記録（3位以内）

◆月平均気温の高いほうからの順位更新

月	順位	官署	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃（西暦年）	統計開始年	平年値 ℃
3	2	新潟	7.5	+2.1	7.7（2002）	1886	5.4
		相川	7.6	+1.8	8.0（2002）	1912	5.8
		富山	7.9	+2.2	8.6（2002）	1939	5.7
		輪島	7.1	+1.8	7.5（2002）	1930	5.3
	3	高田	6.7*	+1.8	7.6（2002）	1923	4.9
		伏木	7.5*	+1.7	8.1（2002）	1886	5.8
		金沢	8.2	+1.7	9.0（2002）	1886	6.5
10	2	相川	17.8*	+1.3	18.4（1998）	1911	16.5
	3	高田	17.1*	+1.5	18.1（1998）	1923	15.6
12	1	相川	8.4	+1.5	8.3(1990)	1911	6.9

◆月降水量の少ないほうからの順位更新

月	順位	官署	降水量 mm	平年比 %	これまでの最少 mm（西暦年）	統計開始年	平年値 mm
1	1	金沢	133.5	50	135.0（1972）	1886	265.9
	2	輪島	118.0	55	88.5（1974）	1930	215.3
	3	富山	130.0	51	113.0（1974）	1939	255.4
3	2	新潟	52.5	50	51.1（1905）	1886	104.6
9	2	輪島	63.0	26	24.5（1995）	1930	246.8
		敦賀	64.0	31	54.4（1928）	1898	206.5

◆月間日照時間の多いほうからの順位更新

月	順位	官署	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	統計開始年	平年値 h
12	1	高田	141.4	172	117.5(1987)	1923	82.0
		伏木	107.1)	147	106.8(1978)	1893	72.8
	2	新潟	92.1	155	95.3(1934)	1926	59.4
	3	富山	109.2	142	122.7(1987)	1939	77.1
		福井	113.9	149	127.5(1915)	1898	76.7
		敦賀	119.5	149	126.2(1987)	1914	80.3

◆降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

月	順位	官署	降雪の深さ月合計 cm	これまでの最大 cm（西暦年）	統計開始年	平年値
11	2	福井	4	8 (1970)	1953	2
		敦賀	9	20 (1970)	1953	2

◆月最深積雪の大きいほうからの順位更新

月	順位	官署	実況値 cm	起日	これまでの最大 cm（西暦年）	統計開始年	平年値
11	2	敦賀	6	20	20 (1970)	1898	0

注： *印はタイ記録
注：)は欠測を含む